（様式1）

平成２４年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） 021	**提案機関名**	自然環境保全センター

要望問題名　ブナハバチ大発生のしくみ及び密度抑制に関する研究開発

要望問題の内容　【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

丹沢の高標高域では、ブナ等の衰弱・枯死が進行し、森林の構造変化による草地化・裸地化、土壌流出を生じるなど、森林生態系の劣化が深刻化しています。

これまでの調査研究から、ブナ林の衰退は、オゾンなどの大気汚染物質や水分ストレス、ブナハバチ等の要因と、立地環境などが複合的に影響して引き起こされていると考えられ、この中でブナハバチの大発生は、ブナ個体を直接枯死させる原因になり得ることが明らかにされています。

そこで、現在取り組まれているブナ林再生研究の一環として、既往研究成果も踏まえて、ブナハバチの大発生と植生退行などの他要因との関係性や、ブナハバチの密度抑制手法に関する研究開発を要望します。

解決希望年限	①1年以内　②2～3年以内　③4～5年以内　④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター　②畜産技術所　③水産技術センター ④自然環境保全センター
備　考	

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	**担当部所**	研究連携課

対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

ブナハバチの生態解明と防除技術の開発

対応の内容等

ご要望にありますように、丹沢山地のブナ衰退要因のなかでも、ブナハバチは衰弱枯死に最も強く関係する要因である可能性が指摘されています。そこで第 2 期プロジェクトでは生息状況を追跡するとともに、大規模な食害が生じるメカニズムを検討してきました。この中で、ブナハバチの大発生地ではブナの衰退や植生の退行などの環境劣化が顕著であることが分かってきました。そこで、第 3 期プロジェクトではブナの衰弱とブナハバチの生存率の関係、あるいは植生の状態と天敵類の生息状況の関係など、生物間相互作用の観点から大発生原因について検討していくことを考えています。また、防除法に関しましては、ハバチ類の防除に関する知見を整理することでブナハバチに対する防除法の候補をリストアップし、現地で防除試験を実施することで適用の可能性を検討していきます。

解決予定年限	①1年以内　②2～3年以内　③4～5年以内　④5～10年以内
備　考	